

子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達に役立つデザインのアイデアを競う

キッズデザイン・プロスペクティブ・コンペティション 2008

最優秀賞は、越野結夏子さんによる「pakipo (パキポ)」

併せて優秀賞、ベストコンセプト賞、ベストコラボレーション賞、奨励賞、ベストサポートカンパニー賞が決定

実施・運営：特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会

協力：板橋区、日本感性工学会、日本デザイン学会、日本人間工学会

*本事業は関東経済産業局委託事業「平成 20 年度若者と中小企業とのネットワーク構築事業（地域特性活用型）」の一環として実施したものです。

NPO キッズデザイン協議会（会長：和田勇 / [http:// www.kidsdesign.jp/](http://www.kidsdesign.jp/)）は経済産業省と連携し、子どもの安全・安心と健やかな成長につながる生活環境の創出に向けた“キッズデザイン”の普及・推進に取り組んでいます。そして、このたび、当協議会と経済産業省は、ものづくりやデザインに関心がある学生を対象として、将来のキッズデザイン賞につながるアイデアを求め・表彰する「キッズデザイン・プロスペクティブ・コンペティション 2008」（実行委員長：山中敏正氏）を実施しました。

コンペティションには、商品開発担当者とのディスカッションや試作の協力など、企業とのコラボレーションを経て生み出された 24 作品が応募されました。そして最後のイベントとして、全応募作品の展示と応募者自身によるプレゼンテーションにより最優秀賞を競う審査会が 2008 年 12 月 20 日（土）に開催されました。（審査員：赤池学氏、竹原あき子氏、西田佳史氏、廣瀬毅氏）

審査の結果、最優秀賞は、越野結夏子さん（筑波大学 3 年）による作品、色と色の間に境界の無い 1 枚のクレヨン「pakipo (パキポ)」に決定いたしました。本作品は、キッズデザインの基本理念の一つである「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」に優れており、子どもの色に対するこだわりをばぐみ、創造性の育成に貢献する作品です。発想の斬新さと実際に子どもの反応を調査した点が評価され、最優秀賞に選ばれました。

また最優秀賞に加え、優秀賞（3 件）、ベストコンセプト賞（1 件）、ベストコラボレーション賞（1 件）、奨励賞（5 件）、ベストサポートカンパニー賞（8 件）の計 19 件の各賞を下記の通り決定いたしました。

■最優秀賞

越野結夏子（筑波大学） pakipo (パキポ)

■優秀賞

姜重太（多摩美術大学大学院） キゴコロン

小向貴大（千葉工業大学） TOTTE～子供のための絵本グッズ～

根本慧（千葉大学） 幼児用陰茎挟み込み防止スライダークャップ「はっさまん」

■ベストコンセプト賞

阿野田香織（多摩美術大学大学院） 雲をかくためのクレヨン

■ベストコラボレーション賞

平塚啓悟（東京理科大学大学院） 溺れ防止支援システム「風呂大将」

■奨励賞

大杉祐太（日本大学） でんでん

押田幸宏（千葉工業大学） tooth-fuzz

橋爪絢子（筑波大学大学院） ベジパズルBOOK

福岡寧（日本大学） 扁平足を矯正するサンダル

森菜実子（日本大学） mogー

■ベストサポートカンパニー賞

酒井産業株式会社

三信化工株式会社

株式会社ズーム・ティー

泰和株式会社

株式会社テイクミー

トクニクスコンピュータウエア株式会社

株式会社成増園服研究所

株式会社フレール館

■お問い合わせ先

キッズデザイン協議会プロスペクティブ・コンペティション 2008 事務局

（ユニバーサルデザイン総合研究所内）

担当 高橋、谷

TEL：03-5733-9375

FAX：03-5733-9376

email：office@kdp2008.com

■キッズデザイン・プロスペクティブ・コンペティションについて

■目的

コンペティションは、関東経済産業局委託事業「平成 20 年度若者と中小企業とのネットワーク構築事業」の一環として実施されました。学生が中小企業における仕事やデザインの実践を知ることで、中小企業での自らのキャリアの可能性に気づくことを目的としました。また中小企業が若手人材のパワーやデザインの新たな潮流を知ることで、デザインのスキルを有するあるいはデザインを志向する若手を採用・育成する意欲を高めることも目的としました。

■ねらい

日本の産業の中核を担う“ものづくり”に関して、その将来を担う学生と、その

基盤を支える中小企業とが、新しいものづくりの機軸となる『キッズデザイン』をテーマとした「キッズデザイン・プロスペクティブ・コンペティション 2008」を目指してコラボレーションを行いました。このことにより、学生と中小企業の両者へ『キッズデザイン』を浸透させ、さらなる『キッズデザイン』の推進をはかることをねらいとしました。

■ステップ

「キッズデザイン・プロスペクティブ・コンペティション」は『キッズデザイン』をテーマとしたコンペティションです。学生は、コンペティションの連動イベント「デザインサマーキャンプ」「アイデアオーディション」「デザインコラボレ

ーション」に参加し、中小企業とのコラボレーションを行いました。そして、それらを通じて得た成果をまとめてコンペティションへの応募としました。

デザインサマーキャンプ

アイデアオーディション

デザインコラボレーション

コンペティション
(プレゼンテーション・
展示会/交流会・表彰式)

■デザインサマーキャンプ 2008年7月28日～30日



■概要

デザインサマーキャンプでは、『キッズデザイン』について学ぶとともに、テーマ別のセッションに分かれてアイデア展開を行い、各自のアイデアをまとめ、アイデアオーディション（後述）でのアイデア発表の準備を行いました。セッションには各大学の先生、ジャンルごとの中小企業が参加し、積極的な議論、相談を行いました。

■セッションテーマ

- ・自然素材を使ったベビーライフ
- ・子どもの日常を守る、安全・安心プロダクツ
- ・食育とパッケージ
- ・幼児のための新しい空間・環境
- ・幼児の活動を支え、守るウェアや装具

■セミナー

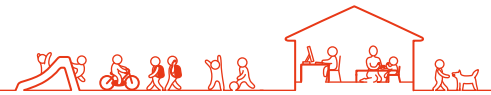
- ・『文具王』が語るキッズデザイン：高畑正幸氏、サンスター文具（株） 主任
- ・中小企業における人材の採用・育成とアイデアの重要性：伊藤幸信氏、サンスター文具（株） 代表取締役社長
- ・『科学者』が語るキッズデザイン：持丸正明氏、独立行政法人産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター 副センター長



■指導

桑原淳司（日本大学）、佐藤弘喜（千葉工業大学）、八馬智（千葉大学）、濱田芳治（多摩美術大学）、日原広一（宮城大学）、山中敏正（筑波大学）（敬称略・五十音順）

■ アイデアオーディション 2008年8月6日



■ 概要

デザインサマーキャンプを修了した学生がアイデアをA2サイズ1枚にまとめて発表し、企業からもデザインに関する取り組みや自社技術・商品の魅力等について発表しました。これらに対して双方が評価・アプローチし、デザインコラボレーションにおけるマッチングを行いました。

■ マッチング形成

- ・ 森 茉実子 (日本大学) + 三信化工株式会社
- ・ 橋爪 絢子 (筑波大学) + 株式会社テイクミー
- ・ 平塚 啓悟 (東京理科大学) + トクニクス コンピュータウエア株式会社
- ・ 根本 慧 (千葉大学) + 株式会社成増園服研究所
- ・ 姜 重太 (多摩美術大学) + 酒井産業株式会社
- ・ 山崎友里江 (筑波大学) + 株式会社ズーム・ティー
- ・ 押田幸宏 (千葉工業大学) + 三信化工株式会社
- ・ 小向貴大 (千葉工業大学) + 株式会社フレーベル館



■ デザインコラボレーション 2008年8月～11月



■ 企業とのコラボレーション

アイデアオーディションを経てマッチングされた学生と中小企業とが、アイデアのブラッシュアップ、試作モデルの製作など、アイデアの実用化に向けた様々なコラボレーションを行いました。

■ 企業の現場見学会

アイデアオーディションでのマッチングの成否にかかわらず、テーマごとに関連する中小企業の現場を見学して意見交換しました。また、協力自治体による中小企業とのイベントを活用した交流会も実施しました。学生がアイデアを深化させるきっかけになるとともに、新たなマッチングを形成することも模索しました。



■キッズデザイン・プロスペクティブ・コンペティション 2008 協力者紹介

■審査員 (50 音順)



赤池 学 AKAIKE Manabu
 科学技術ジャーナリスト、ユニバーサルデザイン総合研究所所長、武蔵野美術大学講師。
 プロデューサーとして、地域資源活用によるユニバーサルデザイン視点の製品・サービス開発、自然・生物に学ぶ技術・産業開発プロジェクトに多数参画。国際シンポジウムのコーディネーター、「世界一受けたい授業」などのテレビ出演、製造業技術・科学哲学分野を中心とした執筆、評論等で活躍中。キッズデザイン協議会発起人、キッズデザイン賞審査委員長。



竹原 あき子 TAKEHARA Akiko
 工業デザイナー、和光大学教授。
 工業デザインとデザインの文化史、環境政策そして衣裳論などを研究。著作に「立ち止まってデザイン」、「ハイテク時代のデザイン」、「環境先進企業」 「魅せられてプラスチック」、「パリの職人」、「眼を磨け」などがあり、デザイン誌「日経デザイン」の巻頭（デザイン、とはづがたり）連載中。日本デザイン学会、日本基礎デザイン学会会員。



西田 佳史 NISHIDA Yoshifumi
 独立行政法人産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター 人間行動理解チーム長。
 2005 年より科学技術振興機構・独創的創造研究推進事業（CREST）で事故予防プロジェクトの代表研究者を務める。2007 年からは経済産業省委託事業「安全知識循環型社会構築事業」を国立成育医療センター、キッズデザイン協議会と協力して推進。子どもの事故予防に関する工学アプローチの実践的研究を通じ、安全知識循環型社会の実現を目指している。キッズデザイン賞審査委員。



廣瀬 毅 HIROSE Takeshi
 経済産業省 製造産業局 デザイン・人間生活システム政策室 室長。
 1981 年通商産業省（現経済産業省）入省。2008 年 7 月より、現職。

■セミナー講師



伊藤幸信 ITO Yukinobu
 サンスター文具株式会社 代表取締役社長。
 1959 年、サンスター文具に入社。営業・企画部門を担当し、象が踏んでも壊れない！「アーム筆入」、「スパイ手帳」、「多面マチック筆入」など多くのヒット商品を生み出した。また、世界最大のキャラクター、ディズニー商品に早くから注目し、40 年以上製造・販売を続けている。2000 年に社長に就任。趣味は家庭菜園と卓球。



高畑正幸 TAKABATAKE Masayuki
 サンスター文具株式会社 企画開発本部 ニューベーシックディビジョン チーフ/文具王。
 「安全練習はさみ」や「スタンド付ループ」などキッズデザイン賞受賞 5 点。「テトラ消ゴム」他グッドデザイン賞受賞 8 点。文具の企画開発を行う傍ら、文房具について様々な角度から執筆、講演等を行う。著作に「究極の文房具カタログ」「筆箱採集帳」がある。「日経トレンドネット」や「ITmedia」他に連載中。TV チャンピオン「全国文房具通選手権」に 3 度優勝の文具王でもある。



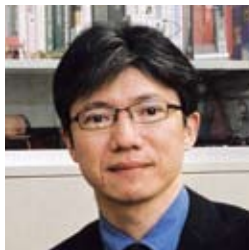
持丸 正明 MOCHIMARU Masaaki
 独立行政法人産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター 副センター長。人体形状・運動・感性の計測とモデル化、その産業応用に関する研究に従事。1999 年に藤沢市の箱ブランコ裁判に関わって以来、子どもの傷害予防に関心を持つ。東京都商品等の安全対策協議会副会長をつとめ衣服の引きヒモ、折りたたみイスの指挟みなどの事故事例分析と啓蒙に協力している。人間工学関連の国際標準化にも関わっており、ISO TC159/SC3（人体寸法とバイオメカニクス）議長。キッズデザイン賞副審査委員長。

■指導教員 (50音順)



桑原 淳司
KUWABARA
Junji
日本大学芸術学部デザイン学科教授。日本大学芸術学部卒業。

(株)環境デザイン研究所 遊環境部 部長、(有)プレイシステム 代表取締役を経て、現在、日本大学芸術学部教授。デザイン教育に遊具の開発を取り入れたカリキュラムを展開。こども環境学会幹事、茨城県自然博物館安全委員会委員など歴任。



佐藤 弘喜
SATO Hiroki
千葉工業大学デザイン科学科教授。千葉大学工学部工業意匠学科卒業。

本田技術研究所デザインセンターにて、乗用車のデザイン開発を担当した後、名古屋造形芸術大学助教授などを経て、2007年より現職。2003年筑波大学大学院博士課程終了、博士(デザイン学)。専門はデザイン学、感性工学。日本デザイン学会評議員、日本感性工学会会員。



八馬 智
HACHIMA
Satoshi
千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻助教千葉大学を修了後、株式会社ドーコンを経て、2004年より千葉大学大学院デザイン科学専攻の助教となる。道路や橋梁などの公共構造物の景観設計・デザインを数多く手がけているとともに、近代化によって生み出された景観を中心に研究活動を行っている。

了後、株式会社ドーコンを経て、2004年より千葉大学大学院デザイン科学専攻の助教となる。道路や橋梁などの公共構造物の景観設計・デザインを数多く手がけているとともに、近代化によって生み出された景観を中心に研究活動を行っている。



濱田 芳治
HAMADA
Yoshiharu
1970年東京生まれ。多摩美術大学プロダクトデザイン卒業。

1996年英国 ROYAL COLLEGE OF ART にインダストリアルデザインを学ぶため渡英。1997年よりブリヂストンスポーツ(株)にてスポーツデザイン、ブランドディレクターを勤め、2001年渡伊。2002年 DOMUS ACADEMY 修士号取得。同年ミラノにて studio galleryworks を設立。現在多摩美術大学生産デザイン学科プロダクト准教授。



日原 広一
HIHARA
Hirokazu
宮城大学事業構想学部デザイン情報学科教授。金沢美術工芸大学工業デザイン専攻科卒。ソニー株式会社、GE日本支社、サントリー株式会社 宣伝事業部を経て現職。専門は商品デザイン、商品開発プロセス。主な作品にはソニー『H I T B I T』、サントリー『ビートニック』他著書：芸術的商品開発力(2005)。

ソニー株式会社、GE日本支社、サントリー株式会社 宣伝事業部を経て現職。専門は商品デザイン、商品開発プロセス。主な作品にはソニー『H I T B I T』、サントリー『ビートニック』他著書：芸術的商品開発力(2005)。

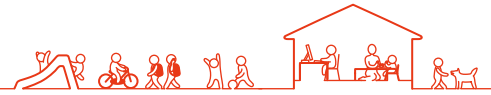
■実行委員長



山中 敏正 YAMANAKA Toshimasa

1982年千葉大学大学院工学研究科修士課程工業意匠学専攻修了。旭光学工業デザイン室でデザイナー及び研究員、イリノイ工科大学特別研究員、デルフト工科大学特別研究員を経て、2005年から筑波大学大学院人間総合科学研究科教授。日本デザイン学会理事、国際デザイン学会連合理事、日本感性工学会副会長。日本認知科学会、日本人間工学会会員。博士(感性科学)。

■参加企業一覧



■企業

- ・大庭ビルメンテナンス株式会社
- ・酒井産業株式会社
- ・三信化工株式会社
- ・サンスター文具株式会社
- ・株式会社ズーム・ティー
- ・泰和株式会社
- ・株式会社テイクミー
- ・トクニクス コンピューターウエア株式会社
- ・株式会社ナナミ
- ・株式会社成増園服研究所
- ・日本医療サポーター株式会社
- ・NPO 法人日本オーガニックコットン流通機構
- ・日本教育備品株式会社
- ・株式会社フレーベル館
- ・マスセット株式会社
- ・有限会社メディア・サーカス
- ・株式会社リネアジャパン

■企業連携団体

- ・女性ネットワーク文京（文京区）
- ・ものづくりネット板橋（板橋区）